

①アースケーブルの交換



バッテリーのマイナス端子とボディを接続するケーブル、アースケーブルをオートローゼンの特注に交換。速く力強く最適な長さでカットし、加速の得られるカーブにてボディにボルト留める



アースの流れを五感で確認する貝崎氏。長さは同社のカイザーゲージで決めていく

②タイヤとホイールの組み直し



ハブとホイールの接触面も入念に磨きあげて、平滑度を上げていく



タイヤとホイールを分離させて、新たに組み替えていく



ホイールも強力なクリーナーでいい匂いニピカピカになるまで洗浄していく。これらの作業を三位一体面出し研磨と呼んでいる



貝崎氏が方向性を判断しながら「このタイヤにはこのホイールを」といったような相性をチェックし、ペアリングを決める。さらに、タイヤの振動の抜けて行く方向とホイールの振動の抜けて行く方向を合わせつつ、位相角の塩梅を計って組み込んでいく



ホイールにはオートローゼン特注ワッシャーを、方向性を揃えながら挟み込む。素材は3%のシリコンを含むエコプラス製で、厚みやサイズ、形状など厳密に開発されている



仕上げはバランスを使って厳密に調整する。1g単位で重りを貼ってチューニングを行っていく



ホイールとその接触面は同じ番数のヤスリで磨いているので、ピッタリとかみ合うようになる



リと車体を接続するアースをオートローゼンのものに交換したのだが、試走しての感想は「エンジンの吹け上がりの重ったるさがなくなつて、サスペンションがよく動くようになりました。その動きはしっかりしていて、路面の細かい凹凸がフラットになったように伝わってきます」と。総合的であり、詳細だ。

②タイヤとホイールの組み直し
柔らかなのに重厚感がある別のクルマのようになった

タイヤとホイールの組み直しに對するインプレも深いものがある。新品のタイヤに組み換えるのでは

なく、装着していたタイヤをいったん外して、ホイールとタイヤの組み合わせや組む角度を見極めて作業。また、バランス取りも一般のタイヤ交換の精度よりも一桁上を追求しているように見える。この組み直しの作業だけで貝崎氏とオートローゼンの山田さんの二人がかりで3時間はかかってしまうのだ。

試走しての益野さんの感想。「別のクルマのようになりました。コーナーを走る時の安心感、ねばりとやわらかさ。一般にサスを硬くすると安定しますが、やわらかいのに重厚感があります。速い中にしなやかさを持っています」

③フロントサスペンションのチューン
コーナーの進入した時に圧倒的な安全性を感じる

フロントサスペンションの取り付け部のボルト。これにオートローゼンのワッシャーを入れて今回のチューンは完成したが、それに対する感想は、後日送っていたメールから引用させてもらおう。「コーナーに進入した時に、

タイヤを組み直したただけなのに、たしかに益野さんの言う通りサスの動きが変わり、あるいはアクセルを踏んだ時の反応や旋回性も変わっている。これがオートローゼンのチューニングである。

ホームオーディオに例えるなら情報量と滑らかさを併せた感覚

実は益野さんはホームオーディオやカーオーディオもやっていて、ホームではタン・ダゴステイノやゴールドムンドのアンプを使っているのだが、「ああいう高級アンプのように細かい情報量は出るのですが、悪い意味でシャープなところがまるでなくて、滑らかさを併せ持つんです」と。あるいは奥さまの高速道路上での感想も説得力がある。「タイヤをまったく違うものに変えたみたい。車内が静かになった!」と。



写真左が益野英昭さん。愛車メルセデス・ベンツSLK350に乗って仙台から、長野県のオートローゼンにやって来た。写真右はカイザーサウンドの代表、貝崎静雄氏、真ん中が筆者の鈴木 裕氏

注目連載

オーディオアスリート

クルマとオーディオによるカイザー・チューニングの世界④

優れた感覚の持ち主、益野英昭さんが登場 愛車メルセデスSLKをグレードアップ

20世紀の2大工業製品といえるのがクルマとオーディオ。本誌はオーディオ誌であるが、クルマにも関心のある読者は多いはず。そこで本企画は、カイザーサウンドが手掛けるサウンドクリニックについて、同社が「オートローゼン」というブランド名で実際に行っているクルマのチューニングに例えながら解説していくというもの。

レポートを担当するのはオーディオ評論家の鈴木 裕氏。オーディオはもちろん音楽とクルマをまさに自らの体で体験してきた人物である。そこで本企画のタイトルは「オーディオアスリート」に決まった。命名者はカイザーサウンドの主宰者である貝崎静雄氏。鈴木 裕氏との強力タッグで読者の方々に、クルマを通してオーディオチューニングの重要性を通してお伝えしている。

第4回目は益野英昭さんが登場。益野さんといえば姉妹誌「季刊・オーディオアクセサリー」の156号(2015年・春号)にご登場いただき、ご自宅のリビングルームを訪問。ローゼンクランツが提唱する「気流の部屋」の実例としてご紹介している。そんな益野さんが「オートローゼン」にやってきた。その目的はもちろん愛車のチューニング。どのような工程を経てどんな結果が生まれたのか?その実践レポートをお届けしていく。

さらに、後半部ではカイザーサウンドが手掛ける注目の音響パネルが登場。その製作工程の途中経過もお届けすることにしよう。

●レポート
鈴木 裕
Yutaka Suzuki
Photo by: 君嶋寛慶

■益野英昭さんの愛車をチューニング
優れた感知能力の持ち主で言葉で伝える表現力も高い

今回、北志賀のオートローゼンを訪れた益野英昭さんは、仙台・石巻で七店舗を展開するキー屋さん「アルパジヨン」のシェフであり経営者だ。クルマはメルセデス・ベンツのSLK350。ノーマル状態で306ps(6500rpm)の最高出力と37・7kg/m(3500~5250rpm)というトルクを持っている。わかりやすく言うと、息の長い豪快な加速をするスポーツカーだ。

オートローゼンにとって、今回のミッションがやりがいのあるものになったのは、ひとつはSLKがハイパワーである点。そしてもうひとつは益野さんご自身のさまざまなものに対する感知能力と、それを言葉で伝える表現能力の高さだ。大学在学中から父の和洋菓子店を手伝っていたということだが、その後はお菓子作りを独学で勉強。成功している人だけのことはあると思った。

①アースケーブルの交換
サスペンションがよく動き路面がフラットになる感覚

たとえば、今回も最初にバッテ

◆カイザー音響パネルの製作レポート



カイザーサウンドの実験室でもあるオートローゼンの山田さんのリスニングルーム。今回は左チャンネルのスピーカーの左側に音響パネルを製作。まずは「ここにボードを作る」という形をテープでつくる



テープをもとにベースとなる板をサイズ通りに貼る。良く見ると四隅の角度が全部微妙に変えてある。素早く振動移動させるためらしい

完成した音響パネル。左側のサウンドステージの臨場感やそこに音像の実在感が異様に生々しくなる。左側だけでも「音楽かく鳴るべし」というカイザーサウンドの目指す音作りの全容が見えた



順番を管理し音をどう流すか、音をどう動かすかをイメージしながら、デザインし、レイアウトを組んでいく



カイザーサウンド独自のモノの方向性、根本から枝先という方向性そのままに3種類の厚さで切断する。戸籍簿管理という技法だ



実際に諏訪宮で使用していた御柱。選り優り杉の木が神木として村人達を守る



今回の音響パネルに採用する木材。御柱祭で有名な諏訪大社の系列のある神社、諏訪宮で使用していた音柱(おんばしら)。その端材を譲り受けることができた

高級スポーツカーらしい豪快な走りと 快適な乗り味の両方が総合的にアップした

チューン前とは圧倒的な安全マージンの差を感じました。素人ながらクリッピングポイントにキレイについて走る事を余裕で考えて身体を反応させれば良いため、チューン前よりも速い速度でコーナーに進入しているにもかかわらず、時間がゆっくりと進む感覚さえありました。」

カーオーディオの音についても、そもそも出川式電源を導入しているのだが「そこに貝崎アースを取り付けたわけですが、特に今まで録音がワルいと思ってたCDほど、さらに顕著に素敵な音へと変貌しました。もちろん、自慢だったCDの音はハッと！思わせられた事も仙台への帰路の途中で何度もありました。」

筆者のインプレを短くつけ加えるならば、高級スポーツカーらしく豪快に走り、積極的に曲がる感じと、しなやかで快適な乗り味の両方を総合的にアップできている。

今回、カイザーサウンドの実験

的なオーディオルームである山田さんのお宅も大きく進化しました。これまでの流れを簡単にまとめると、昨年の初夏の段階では浸透力の高い音で、音のスジが見えるような特異な鳴り方をしていた。やや人工的と言ってもいいかもしれない。帯域バランス的にはハイパランス。それが夏に電源系をいじり、天井の剛性対策を作業。そして秋から冬にかけてリスニングポイントの左右に音響パネルを製作することによって、音にわずかにあった雑味を取り、低音を増強させつつ、音の温度感を適切なものにアジャストしてきた流れがあった。

今回は左チャンネルのスピーカーの左側に音響パネルを製作。ただし、リスニングポイントの左右にあるものとはまったく違うデザインである。そもそも材料が違う。実は山田さんの家の近くにある神社で使っていた杉材を使うことができたのだ。諏訪大社の御柱祭は有名だが、あの系列の神社で6年に一度、神様を導く音柱(おんばしら)を交換するという。使用済みの御柱は再加工されて使われるそうだが、その端材、柱を角材に

するために落としたりカマボコ型の部分を譲り受けることができた。これを、カイザーサウンドで大事にしているモノの方向性、根本から枝先という方向性そのままにカイザーゲージの考え方によって3種類の厚さで切断。順番を管理し、音をどう流すか、音をどう動かすかをイメージしながら、デザインし、作っていったのが今回の音響パネルだ。後述するがこの効果が激甚だった。

あえて左右対称を避けて響きに流れをつけていく

まず基本的な話として、現代の住宅によく使われている壁等の石膏ボードについて貝崎氏はこう語る。「これが諸悪の根源です。オーディオの性能が上がるほどに、壁の石膏の響きが乗ってきます。」「スピーカーから出た音というのは、走り、流れるものです。ところが石膏ボードというのは音が走らないんです。走るというのはいい意味で、響くというところ。」「そもそもボードを製作する前の状態として、スピーカーの左右の壁に「ここにボードを作る」とい

崎氏と話したり、あるいは作業に立ち会って筆者が感覚的に把握できたその意味をまとめてみよう。もっとも大事なポイントは音響的に5度の和音の関係を作ることでと理解している。たとえば木琴では「ド」の音の鍵盤があつて、そのオクターブ上の「ド」の音の鍵盤は半分の長さになっている。音程を長さでコントロールしているわけだ。

カイザーサウンドでは、部屋の中にスピーカーを置く位置や、ケープルの長さ、床材の長さ、音響パネルなどのサイズを長さによって管理しているように見える。オクターブ関係はもちろん、5度の関係を特に大切にしている。つまり「ド」に対する「ソ」である。音楽用語で言うパワーコードなのだ。ここに「ミ」が入ると長調、「ミ」が入ると短調の和音になるが、「ミ」を入れないことによってどちらの和声にも対応できるようになる。そして、「ド」と「ソ」だけでなく、他の音程においても5度の関係の組み合わせをたくさん作ることでさまざまな調性に対応させ、音が良く鳴るようになっている。

「音楽かく鳴るべし」♪♪おののいてしまおう カイザーの全容を感じる音響空間が完成間近

音が流れるようにしている。気流をコントロールして空間全体で鳴らし合う効果

山田邸のオーディオルームの進化を見てみると、スピーカー下の床材、背面の音響グッズ、床に置かれた「Stream Reverb」という気流コントロール、そしてリスニングポイント左右の音響パネル、今回の音響パネルによって、スピーカーから音を引き出しているように感じる。これらのアクセサリ類はスピーカーから音が出て、それをバッシブに受けて作動しているはずだが、感覚的にはこれらの総合力によって、スピーカーから音を引っぱりだして、空間で鳴らし合っているようにさえ聞こえる。その関係性がついに見えてきたと思った。

実在感が異様に生々しく訴える力が極めて高い

ではその再生音は現状、どうなっているのか。つとめて冷静にオーディオ的に記述するが、異様な実在感である。今回、左側しか作っていないので当然全体が良くない

つてはいない。いないのに、左側のサウンドステージの臨場感やそこに定位している音像の実在感が異様に生々しい。こうした要素が上がると帯域バランスや音色感といった項目が気にならなくなるが、意図的にそれらを聴いても実によくバランスが取られていて、極めて訴える力が高い。

こう書くとそんな左側だけ臨場感が高くなるのはおかしいと仰る方もいると思うが、実際に聴くと本当にそうなのだから仕方がない。

別の言い方をすると、ジグソーパズルで、コマ数が3割入っただけではなんの絵柄なのかわかりにくいのが、7割入ると絵柄の意図しているものがわかって作業がはかどるように、左側だけに「音楽かく鳴るべし」というカイザーサウンドの目指している全容が見えてきた感じさえある。しかし、貝崎氏によれば今回のパネルと同じ考え方で右側も完成した段階でさえ、7割程度の完成度だということ。最初から山頂が見えて作業してきているのだ。その実力の深さにおののいている。



③フロントサスペンションのチューン



フロントのショックアブソーバー取り付け部のワッシャーを「オートローゼン」の特注パーツに交換。その効果を「コーナーに進入した時に、チューン前とは圧倒的な安全マージンの差を感じました」と益野さんは語る



ヒューズボックスの中から1個1個のヒューズを見極め、同じアンペアどうしを入れ替えたり、逆向きとなっているヒューズの向きを正しくすると「足まわりがよくなってしっかりしました」と語る益野さん

にすることです」

セッティングや製品開発の基準 カイザーゲージの重要な役割

少し具体的な話をしてみよう。カイザーサウンドにはカイザーゲージがあるのをご存じの方もいるかもしれない。ウェブサイトにもいろいろ書かれているのだが、貝